

2025年度 放送大学教育振興会助成事業成果概要

1. 事業の課題名

実践的課題解決能力を育成するための遠隔グループ型 PBL の研究開発

2. 研究者情報

所属機関名	東京情報デザイン専門職大学
職 名	准教授
研究者・研究 代表者氏名	櫻井 亮

3. 事業の目的等

実践的な課題解決能力を持つ人材の育成にプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）が注目される。特に創発的スキルの育成にはグループ型 PBL が有効である。本事業は多様な学習者へ学習機会を提供すべく、遠隔での創発的 PBL 手法の開発を目指す。本事業の手法の有効性を検証するため、4 つのグループで同一テーマの PBL の実験を行う。環境は、「同一空間」と「遠隔」の 2 つの条件を設定する。次に、予め詳細なプロセスへの理解とルール共有がされたグループと、されていないグループの 2 条件を設定する。この 2 つの条件を組み合わせた 4 グループによる比較を行う。

4. 事業の成果の概要

本事業の手法の有効性を検証するため、4 つのグループで同一テーマの PBL の実験をおこなった。環境は、「同一空間」と「遠隔」の 2 条件と、予め詳細なプロセスへの理解とルール共有がされたグループと、されていないグループの 2 条件とを組み合わせた 4 グループによる比較を行った。

・ 比較条件：

	プロセス理解・ルール共有	
	有	無
同一空間	グループ1	グループ2
遠隔	グループ3	グループ4

同一空間のグループ 1, 2 は、学生を対象として対面し、着席して付箋紙を使い実施した。遠隔のグループ 3, 4 は、学生を対象として Zoom・Slido を組み合わせ、オンライン環境で遠隔ツール(Miro)を使い実施した。

同一空間においては、グループ 2 の平均アイデア数 19 個に対し、グループ 1 は 31 個となり約 59%のアイデア数増加が確認された。遠隔のグループ 4 ではグループ間での議論が全く無かった。一方、プロセス理解とルール共有を示したグループ 3 では 34 個のアイデア数となり、グループ間での議論が活発に行われた。本比較により、グループによるアイデア創発という観点においては、プロセス理解・ルール共有がアイデア創発の活性化に有効であることが示唆された。